

国有林野 事業の取組

四国森林管理局 四万十川森林環境保全ふれあいセンター

ニホンジカによる食害からの再生を目指して

―滑床山（三本杭）でのミヤコザサ植生回復への取組―



昭和61年頃（写真上）と
平成19年（写真下）の滑床山の姿

1 はじめに

愛媛県と高知県の県境近くに位置する標高一、二二六メートルの滑床山（なめとこやま）（通称三本杭（さんぼんぐい））周辺（愛媛・四万十森林管理署管内）は、四国山地の登山の人気スポットで、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していま

した。しかし、平成一二年頃から山頂のササ原や周辺の天然林で、灌木類、ミヤコザサ等の植生が衰退・消失しています。

当時、原因はニホンジカによる食害と考えられていましたが、被害の実態等の詳細は明らかにされていませんでした。被害の著しい箇所では、植生が消失、裸地化して、土壌の流

出が見られるなど、そのまま放置すれば裸地化が一層拡大する恐れがありました。

また、当地周辺は滑床山林木遺産資源保存林に設定されているのをはじめ、足摺宇和海国立公園第一種特別地域や水源かん養保安林・保健保安林に指定されているなど、自然環境の保全上、非常に重要な地域とされています。このため、四万十川森林環境保全ふれあいセンターでは、植生の衰退・消失の原因等についての早急な調査と、調査結果に基づく植生回復のための具体的方策の検討を通じ、滑床山の裸地化対策に取り組んできました。

2 具体的な取組

（１）被害地の調査

平成一七年度に現地調査を行った結果、植生の衰退・消失の主な原因

はニホンジカによる食害であることが判明しました。既に表土の流亡や天然林の枯損が広範囲で見られ、極めて深刻な状況にあったため、裸地化した部分の植生回復とニホンジカの対策が早急に必要と判断しました。

（２）検討会の開催

こうした結果に対応するため、地元関係者、有識者、関係行政機関等の参加により、平成一八年度に検討会を開催しました。

検討会においては、①特に被害が著しい山頂付近の二箇所シカ防護ネットを設置すること、②被害を受ける前の植生であるミヤコザサを移植することが提言されました。

（３）シカ防護ネットの設置とボラ
ンティアによるミヤコザサ地下茎
の植栽

検討会での提言に基づき、平成一八年一二月にシカ防護ネットを二



移植作業の参加者

箇所合わせて延べ五〇〇箇所設置して、〇・七三畝を開い、ニホンジカの侵入を防ぐ措置をとりました。

また、平成一九年三月に、ボランティアなど約一二〇名がシカ防護ネットで囲まれた二箇所に、被害を受けていない箇所から掘り取ったミヤコザサの地下茎を移植しました。

移植は、モザイク状に二三七箇所設定した一畝四方の区画に敷き詰めるようにして行いました。

参加したのは、愛媛県・高知県のボーイスカウトと地元関係者である「南予のぼろう会」、「滑床を愛する会」、「滑床千年の森をつくる会」、松野町役場、四万十中央森林組合、西土佐村森林組合、森林総合研究所四国支所など様々な団体でした。

(4) 移植後の状況の把握

ミヤコザサの移植後、ミヤコザサ

の生育状況を定期的に調査するため、モニタリングを行っています。

シカ防護ネットで囲んである箇所において、移植した区画から無作為に選んだ七箇所及び対照区として移植箇所以外で無作為に選んだ三箇所において、ミヤコザサの本数及び高さを調査しています。

前者の七箇所では、平成一九年七月にはミヤコザサは平均で二区画当たり四七本でしたが、一年後には、平均で四〇〇本になるなど移植したミヤコザサは順調に増殖していることがわかりました。

また、地下茎を移植していない対照区において、平成二〇年七月にはシカ防護ネットの効果により、(注)生き残っていた地下茎から発生したミヤコザサが平均で一区画当たり約一六〇本発生していることが確認されました。

3 これまでの取組成果

移植したミヤコザサは順調に生育しており、ミヤコザサ以外では、ニホンジカの被害を受けずに残っていたイワヒメワラビの群落が広がりを見せ、その群落の

中にカエデ類、シデ類の稚幼樹が発生しています。また、ニホンジカが食べないヒカゲノカズラが徐々に拡大している箇所もあり、これら植生の回復が土壌の流出防止に有効に作用することが期待されます。

原植生であるミヤコザサは、移植のみならず生き残りの地下茎からの発生も確認され、順調に回復しています。これは、シカ防護ネットを張ってニホンジカの侵入を防ぎ、食害などを防いだ効果が十分に発揮されたことによると考えられます。しかしながら、未だミヤコザサが地表を覆いつくすまでには至っておらず、今後も経過観察が必要です。

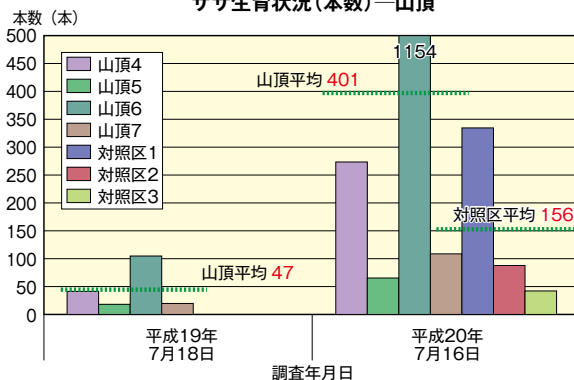
4 今後の取組み

この取組を実施している滑床山周辺は、これまでも森林環境教育の



成長したササ

ササ生育状況(本数)―山頂



フィールドとして活用してきたところであり、多くの皆さんに植生が回復しつつある様子をご覧頂いております。当センターでは、今後も皆さんと一緒に植生回復に取り組み、滑床山が以前のようにみどり豊かな山に戻るよう、ニホンジカ対策などに引き続き取り組んでいく考えです。

(注) ミヤコザサは地下茎によって増殖し、地上部が食害されても地下茎が生き残っていれば、その地下茎から地上部が発生します。